

A. 日 時 2016年4月13日(水曜日)18時00分~20時15分

B. 場 所 本会会議室

C. 出席者 松本主査、他7名

D. 提出資料(提出委員名も記入して下さい)

No. 10-01: 第9回 性能評価法検討WG 議事録(案)

No. 10-02: 第2回居住性能評価指針改定小委員会 議事録(案)

No. 10-03: 水平振動に関する評価指針提案に向けて

No. 10-04: 160413AIJ 評価法 WG 資料

E. 審議事項

1. 議事録確認

資料 No. 10-01「第9回 性能評価法検討WG 議事録(案)」について松本主査より報告

→ 承認された

2. 議論

A) 資料 No. 10-02「第2回居住性能評価指針改定小委員会 議事録(案)」について松本主査より報告

※ 本WGの活動内容を改定小委員会へ報告

→ 本WGでの議論を踏まえ、現時点での評価指針案を作成し議論を行った

→ 参加委員より寄せられた意見等は同資料 No. 10-02 参照のこと

B) 資料 No. 10-03「水平振動に関する評価指針提案に向けて」について石川委員より報告

※ 水平振動に関する指針解説案(一部)について

→ 指針改定当初の方針に則り、既往研究結果を極力活かす方法でとりまとめ、新たな指針を提案することを主眼に検討を行ってきた

※ 振動数変動における重み付けについて

→ 解説案では評価曲線を既往研究の結果をもとに2次回帰曲線にて示しているが、鉛直振動との整合性(鉛直振動は線形にて提案)に関して改定小委員会より意見が寄せられている

→ 指針本文としては、任意の振動の知覚割合の算定で容易に算定できる方が望ましい。設計者が直感で評価できる配慮も必要等の意見が本WG内においても寄せられた

※ 今後の検討

- 解説は原案でよいが、指針本文として精査法（回帰曲線）とそれに基づく簡便法（線形）の2つの手法にて評価を検討する
- 2つの手法により評価を行うために次に示す3つのレベルの検証を行う
- レベル1：同資料図1.2.1に関しては既往研究に基づき精細に2次回帰したものであり、解説文の一部として同提案をもとに今後とも検討を行う（以下図中、灰太一点鎖線）
- レベル2：上記の検討結果の知覚確率50%（既往研究結果の多い）を平行移動することにより各振動数における知覚割合を示す（精査法にて採用する評価曲線）（以下図中、黒細実線）
- レベル3：上記評価曲線における各知覚割合曲線を包含（安全側評価）する評価直線を検討する（簡便法にて採用する評価直線）（以下図中、黒細点線）

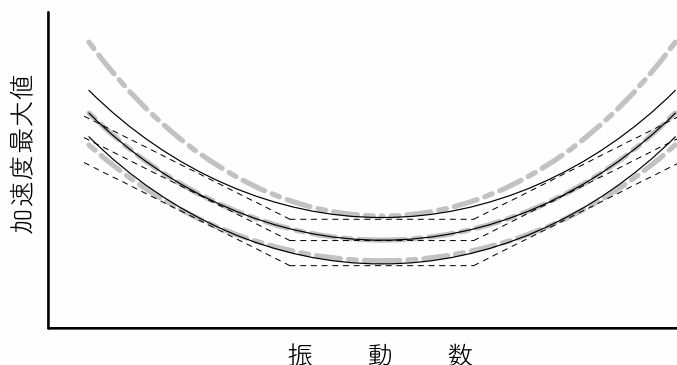


図1 検討のイメージ

C) 鉛直振動に対する評価に関し議論

- ※ 本WGならびに改定小委員会での指摘に関し、今後とも検討を継続する
 - 30Hz以上の振動数範囲の評価について、継続時間の影響を検討する際の「一つのイベント」の定義について等

3. 次回以降の課題

- ※ 鉛直SWG/水平SWGにおける主な検討項目を以下に示す
 - 水平振動：3つのレベルでの評価曲線/直線の提案、継続時間の影響を加味した評価の検討等
 - 鉛直振動：30Hz以上の振動数範囲の評価の根拠を示す、「一つのイベント」の定義等

次回の当委員会は、2016年5月18日（水曜日）18時00分より本会会議室で開催します。

資料を提出される方は、あらかじめ準備(9部)されるか、もしくは2日前までに本小委員会のオンラインストレージまでアップロードお願いいたします。